

原因

イスパニア王カロロ二世嗣ナシ。フランス王ルイ十四世ハ、其ノ孫フイリポナドイツ帝レオホルドハ、其ノ次子カロロナ後嗣トナサンコトヲ欲シ、互ニ相争ヒタリケルガ、一七〇〇年カロロ王、歿スルニ臨ミ、遺言シテフイリポナヲ繼嗣トナシ、フイリポナ王位ニ即ク。フイリポナ五世是レナリ。時ニヨーロッパ各國ハ、フランスノ勢運ノ隆々タルヲ惡ミ、且ツ怖レ、ドイツ帝ト聯合シテフランスト争フ。

1、戦端開始

一七〇一年、戦争ハ、各方面ニ開始セラレ、イギリスノマールボロ、カガヤノエウジエニオノ三人ハ、最も驍名ヲ轟カシテヨク戦ヘリ。
一七〇一年、イギリスノ輿論ハ、平和ニ傾キ、マールボロハ、軍中ヨリ召

口、經

過

一〇、
イスパ
ニア王
位繼承
戦争

2、形勢一變

還セラレ、翌年ドイツ帝ヨセフ一世歿シ、弟カロロ、帝位ニ即キシカバ、局面此ニ一變シテ、一七一三年、ユトレヒトニ於テ、和ヲ講ズ。

1、ユトレヒト條約

イスパニア、フランス兩國ハ、永久合同セザルチ條件トナシテ、フイリポ五世ノ王位ヲ繼承ス。
イギリスハ、シブラルタル及ヒミノルカ島チイスパニアヨリ、ニカフチンドランド及ヒノバスコチアチフランスヨリ割讓セラレ。

ハ、結果

2、戦後ニ於ケル列國

ドイツハ、ネーデルラント、ポ
ラス、サルヂニア、ナポリヲ得
タリ。

フランス
王權ヲ許サル。

イギリス
ルイ十四世ノ雄圖全
ク挫折シ、國力疲弊
シ、人心腐敗シ、其
ノ勢力振ハズ。

オランダ
積年ノ疲弊、之ヲ挽
回スルニ由ナク、日
ニ衰運ニ傾ク。

プロシヤ
マス、隆運ニ赴キ
テ、國威大ニ發揚セ
リ。

スペイン
サザヤハ、一七〇六
年、シチリアトサル
ヂニアトヲ交換シ、
王號ヲ稱ス。後ノイ
タリア王國ナリ。

ポロニア
プロシヤ王國トナリ
テ、國勢漸次盛運ニ
赴キ。

イ、ペテロ一世

ペテロハ、夙ニ大志ヲ懷抱シ、外國ノ歴訪、外人ノ招聘
等ニ依リテ、先進國ニ於ケル強大ナル所以ヲ審ニ究メ、
孜々トシテ内治ノ改革ヲ營ミ、營々トシテ國運ノ發達セ
ンコトヲ勉メ、且ツギリシアアカドリツク主長ヲ兼ネタリ
ヲ以テ、政教ノ主權ハ、一身ニ集マリ、大飛躍スベキ機
備ハ、此ニ全ク成ルニ至リ。

フランス
プロシヤ王國トナリ
テ、國勢漸次盛運ニ
赴キ。

1、原因

ベテロハ、バルト海ノ沿岸ニ於テ、海口ヲ得ンコトヲ欲シ、デンマルク、ポーランドト同盟シテ、其ノ領土ニ侵入ス。一七〇〇年。

い、デンマルク方面

カロロ十二世ハ、年少氣銳ニシテ非凡ノ將才ニ富ム。迅雷耳ヲ掩フニ違アラザル底ノ勢ヲ以テ、デンマルクニ侵入シ、僅々二周ヲ出デズシテ、和議ヲ請ハシムルニ至ル。

一、ロシア興

日、大北戦争方

2、経過

過

ろ、ロシア、ポーランド方面

カロロハ、ソレヨリ轉シテロシアニ入リナルバチ攻陷シ、進ンテポーランドヲ略取シ、オーグスト王ヲ廢シテ、スタニスラフ、レスチンスキヲ立ツ。時ニ一七〇四年。ベテロハ、此ノ間ニ乘ジテ、フィンランド灣ノ沿岸ヲ略取ス。又カロロハ、ホルタバニ大敗シ、トルコニ投ズ。是ニ

3、結

果

於テ、オーグスト復位シ、デンマルク及ビスエーデン領ヲ侵略ス。

バルト海南岸ノ地ヲプロシア及ビハンノウエルニ割譲ス。一七二〇年。

バルト海東岸ノ地ヲロシアニ割譲ス。一七二一年ニシテ、ニスマット條約ニヨル。

1、原

因

一七三三年、ポーランド王オーグスト歿シ、其ノ子オーグスト三世、スタニスラ、レスチンスキト王位ヲ争フ。

3、ドボ
王位繼承
戦争

2、事

實

フランス、イスパニアノ二國ハ、縁類ノ故ヲ以テ、スタニスラヲ援ケ、ドイツ、及ビロシアノ兩帝ハ、オーグストヲ援ケテ、交戦數年ニ達ス。

スタニスラハ、王位ヲ捨テ、ロートリンゲン公トナル。

オーストリアハ、ピアツェントツア及ビバルマンノ地方ヲ割譲シ得タリ。

イスパニアノドン、カロロハナボリ、シチリアヲ得テ、ナポリ王ト云フ。

此ノ條約ハ、一七三八年、ウイーン條約ト云フ。

イ、フレデリキ二世大王

王、生レテ柔弱、幼ニシテ文學遊戲ヲ好ミ、且ツ音樂ノ嗜好淺カラズ。資性嚴酷ニシテ、勤儉尙武ノ風ニ富メル父王ト常ニ衝突シテ、非常ニ迫害ヲ受ケ、一時王宮ヲ遁レテ、イギリスニ出奔セントセシガ、成ラズ。後父王ノ歿後、王位ニ即クニ及ニテ、豪傑ノ天資ヲ發揮シ、終ニ大王ノ名ヲ成スニ至リメ。一七四〇年ヨリ一七八六年。

一、原因

一七四〇年、ドイツ帝カロロ六世病歿シ、男系ノ斷絶セルヲ以テ、女マリアテレサハ、ブラグマチツシエー、サンクチオン法ニ則リテ、オーストリアノ遺領ヲ相續シタリシガ、皇帝カロロ七世及ヒサクソニー侯兼ポーランド王タルオーグストハ、其ノ繼承權ヲ主張シ、イスペインア王フイリポ五世、ナポ

三、アプロシ

ロ、オーストリア王位繼承戦争

2、第一期戦争

シア王フレデリキ等ノ如キモ亦、其ノ一部ノ要求ヲ出スニ至レリ。一七四一年、フレデリキ大王、兵ヲ出シテ、シレジアヲ占領ス。パワリア侯カロロ亦フランス、イスペインアノ援助ヲ得テ、兵ヲ舉ゲテ、オーストリアヲ侵シ、翌年皇帝トナリ、カロロ七世ト稱ス。オーストリア女王マリア、テッサ、兩方面ニ敵ヲ控エルノ不利ナルヲ知り、シレジアノ大半ヲ舉ゲテ、フレデリキ大王ニ與ヘ、對オーストリア同盟ヲ脱セシメ。次テイギリス、サルジニアノ援ヲ得テ、パワリア軍ヲ破ル。

3、第二期戦争

フレデリキ大王ハ、其ノ後、オーストリア軍ノ強勢ナルヲ見テ、シレジアノ地ノ危カラシムコトヲ憂ヒ、再ビフランス、プロリアト同盟シテ、オースタリアヲ侵シタリシガ、カロロ七世歿後、テレサノ夫、フランシス一世帝位ニ即ク。フレデリキ大王ハ、オースタリアトドレスデンニ於テ、和議ヲ結ビ、シレジアニ於ケル領有ヲ確定シ、次テ列國ハ、一七四八年アーヘンニ會シテ、和議ヲ約スルニ至ル。

列國ハ、各其ノ侵地ヲ返シ。但シプロシアハ、シレジアヲ得、オーストリアハ、バルマ、ピエ

4、アーヘン條約

る、

チェンツァイスバニア王子ニ與フ。

ハンノフェル家ノイギリスニ君臨シ、及ビブラグマチツジエ、サンクチチンハ、之ヲ承認スルコト。

一三、七年、事、實

イ、原因

- 1、マリアテレサが、シレジアを回復セントス。
- 2、ロシア、フランス、イスペイン及ピサクソニアノ勢力ノ強大ナルヲ見テ、マリアテレサニ賛同ノ意ヲ表シ、プロシヤヲ分割セントシテ、之ヲ約ス。
- 1、プロシヤ王ノ機先
- 1756年、フレデリク大王、急ニ奮起シテ、サクソニアヲ占領シ、之ヲ根據トシテ、頻リニ列國ノ軍ヲ破ル。
- 2、プロシヤノ困難
- 1762年、同盟國ナルイギリスハ、軍資ヲ供給スルコトヲ断チタルヨリシテ、プロシヤハ、其ノ勢力、大ニ蹙リ、大王ハ、終ニ自殺ヲ企ツルニ至リス。
- 1762年、ロシア帝、ペテロ位ニ即キ、プロシヤヲ援ク。其ノ翌年、イギリス、フランスノ和約成リ、フランス

ハ、結果

- 3、形勢一變
 - 兵ハ、ドイツヲ撤退シタルニヨリ、其ノ形勢ハ、ココニ忽チ一變シ、一七六三年、終ニフベルトツアルケニ於テ、和議ヲ講ズ。
 - 1、プロシヤハ、シレシヤヲ維持ス。
 - 2、マリアテレサノ子ヨセフ二世ヲ以テ、皇帝ニ選舉スベキコトヲ豫約セリ。
 - 3、プロシヤハ、此ノ戦役ニ於テ、寸土ヲ得ザルノミナラズ、何等得ル所ナシ。然レドモ、大ニ國威ヲ發揚シ、他日霸權ヲ握ルノ基ヲナス。
- イスパニア人ノ探檢ヲ試ムルモノ多ク、一五一九年ニハ、コルサス、メキシコチ、一五二四年ニハ、ビザロ、

1. 各國ノ殖民政策

1. イスパニア

ルイナ、一五三五年ハ、アルマゲロ、チリヲ攻略シ、漸次其ノ版圖ヲ廣メ、爾後約一百年ノ間ハ、イスパニア獨リ勢力ヲ得タリキ。

イスパニアノ勢力ハ、新大陸ニ稍衰フルト共ニ、オランダハ、早く新大陸ニ着目シ、一六一八年、インド商會ヲ組織シ、ニウアムステルダム殖民地ヲ作り、次テ西印度諸島ヲ占領シ、盛ニ殖民政策ヲ施行セシガ、後イギリスニ其ノ權ヲ奪ハル。

一五八八年、イスパニアノ無敵艦隊ヲ撃破シテヨリ、殖民地ニ對スル事業俄然トシテ勃興シ、エリサベス女王ノ

2. オランダ

3. イギリス

世、既ニバトシニア殖民地ヲ開キ、次テオランダヨリ、ニウアムステルダムノ地ヲ奪ヒ、ニウイングランド殖民地ヲ創設シ、漸次其ノ境域ヲ擴大スルニ至レリ。

4. フランス

十六世紀ノ末頃ヨリ既ニカナダニ殖民シ、ルイ十四世ノトキ、ミシシッピ河兩岸ノ地ヲ占領シ、ルイシアナ殖民地ヲ起シ、其ノ領土ハ、漸次イギリスニ接シ、兩者ノ衝突ヲ見ルニ至レリ。一七五六年、ヨーロッパニ於テ、七年戦争ノ起ルヤ、イギリス、フランスノ兩國ハ、其ノ殖民地ニ於テ、互ニ相争フニ至レリ。而シテイギリス軍ハ、常

北アメリカ合衆國獨立

5、イギリス、フランスノ衝突

ニ勝利ヲ得ルノ地ニ立ツ。カナダ及ビフランス領、西印度諸島ノ如キハ、悉ク其ノ占領スルトコロトナリ、北アメリカニ於ケルイギリスノ勢力ハ、日ニ盛ナルニ至ル。

1、原因

イギリスハ、國庫ノ窮乏甚ダシキモノアリ、其ノ稅ヲ殖民地ニ取ラントスルヤ、殖民地ハ國會ノ越權ヲ咎メ、強ク之ニ反抗スルニ至レリ。時シモ一七七三年ボストン事件ノ起リテ、イギリス本國ニテハ、兵力ヲ以テ之ヲ鎮壓セント欲シ、以テ之ヲ實行セントス。殖民地十三州ハ、大ニ激昂シテ、其ノ極度ニ達シ、一七七五年、ワシントン指揮

獨立ノ經過

2、戰記

ノ下ニアリテ獨立軍ヲ起シ、次テ獨立ヲ宣言スルニ至レリ。
フランス、イスパニアハ、共ニイギリスニ奮怒アルヲ以テ、獨立軍ヲ援助シ、ロシアハ、海國武裝中立同盟ヲ起シテ、暗ニ援助ヲ與ヘタルニ依リ、獨立軍ハ、大ニ振興シ、一七八一年、イギリス軍ノ主力ヲ粉碎ス。イギリス軍、軍門ニ降ル。

一七八三年、ベルサイユニ於テ講和ス。

A、アメリカ合衆國獨立承認

イ、東方侵略

ロシアノシベリア侵略ハ、イバン四世ノトキ、コサツクノ酋長タルイルマクナルモノ、オビ河ノ地ヲ攻略シタルニ始マリ、其ノ後ニ於ケル諸帝ハ、概テ其ノ遠志ヲ繼ギ、一六三二年ノ頃、終ニカムチャツカニ達シ、ペテロ大帝ノトキ、一六八九年、イルチンスク條約ニ依リ、清國トノ境界ヲ議定シ、一六九七年、始メテ日本ト交渉ヲ開クニ至ル。

一七六四年ポーランド王オーグスト三世歿シ、國內紛擾ヲ極メヌ。ロシアノカタリナ二世、其ノ寵臣ヲ推舉シテ、王トナシ、遂ニ兵力ニ訴ヘ、大ニ干渉ヲ試ミタルヲ以テ、ポーランド國人ハ非常ニ憤慨シ、トルコノ援助ニ依リテ、之ニ抗セシガバ、カタリナ、兵ヲ

一五、ロシアの東方侵略とポンド分割

1、第一次分割

出シテ、ポーランドヲ征シ、更ニトルコヲ攻メテ、大ニ之ヲ破ル。而シテ、ロシア王フレデリキ二世、之ヲ見テ、獨リロシアノ強大ニ趣カシコトヲ恐レ、オーストリアト結託シテ。ロシアニ交渉シ、一七七二年、終ニ三國間ニ於テ、ポーランド第一次分割ヲ行ヒ、其ノ國境ニ接セル地ヲ略取ス。其ノ後、ロシア、トルコノ和議成リ、ロシアハ黒海北岸ノ一部ヲ得タリ。
第一次分割後、國人ハ大ニ憤慨シ、一七九一年、憲法ヲ改メ、選舉王制ヲ廢シテ、世襲トナシ、國會ノ決議ヲ多數決トナス等、頗ル見ルベキモノアリ。

ポーランド分割

2、第二次分割

然レドモ、カタリナ二世之ヲ悦バズ。俄ニロシア黨ノ貴族ヲ煽動シテ之ニ反抗セシメ、兵ヲ送りテ之ヲ助ケタルヲ以テ、志士コツシエーシコ等ノ徒ハ、兵ヲ舉グ。ロシア軍之ヲ破リ、新憲法ハ、全ク破壊セラレ。ロシア王フレデリキハ、ポーランドノ志士ノ懇請スルニ拘ラズ、ロシアニ獨リ利ヲ得ラレンコトヲ怖レ、援兵ヲ與ハザルノミナラズ、却テロシアト兵ヲ合セテ、ポーランドニ侵入シ、一七九三年、終ニ第二次分割ヲ行ヘリ。

第二次分割後、ロシアハ、益々ポーランド内政ニ干渉シ、頗ル暴狀ヲ極メタ

3、第三次分割 (滅亡)

リシカバ、一七九四年、コツシカーシコ等、憤慨ニ堪ヘズ、古ビ義兵ヲ舉ゲテ、之ニ抗ス。其ノ勢力一時強大ナリシガ、將士等、内ニ和セズ、遂ニロシア軍ノ乘ズルトコロトナリ、コシカーシコハ、擒ニセラル。ロシアハ、一七九五年、プロシア、オーストリアノ二國ト協議シ、第三次分割ヲ行フ。是ニ於テカ、ポーランドハ、遂ニ滅ブ。ニ

1、原

因

い、戦争及び豪華トノ爲ニヨリテ財政ハ、頗ル困難ナ極ム。

ろ、政府ニハ、冗官頗ル多クシテ統一ヲ缺ケリ。

は、貧富ノ懸隔ノ極メテ甚ダシキニ拘ハラズ、上級社會ニ於テハ、租稅甚ダ輕ク、下級社會ニアリテハ、却テ重稅ヲ負擔スルニ至レル奇觀アリ。

に、革新文學ノ擴布セテレテ、大ニ之ヲ煽動セルコト。

ほ、北アメリカ合衆國ニ於ケル獨

2、發

端

ルイ十六世、即位ノ後、財政ノ紊亂ヲ救濟センガ爲メニ、チウルゴール、ネツクル、カロース等ノ名士ヲ拔擢シテ、財政整理ノ任ニ當ラシメタリシガ、世族、僧侶等ノ妨害ヲ受ケテ之ヲ果サズ、一八八九年五月、ネツクルノ獻策ニ基キ、國會ヲ召集シタリシガ、貴族、僧侶及び平民ノ間ニ於テ、甚ダシキ衝突ノ起ルアリ、平民ハ、分離シテ、別ニ國民議會ヲ組織ス。政府ハ、武力ヲ以テ、之ヲ威嚇セシガ、暴民憤起、バスチーヌノ獄ヲ破壊シ、以テ改革ノ先驅ヲナセリ。之ト同時ニ地方ニモ、暴動ノ起リテ、貴族ハ多ク國外ニ遁ル。

イ、革命期ノ

い、國王拘禁

一七八九年十月、國王、王后トモニ亂民ニ擁セラレテ、パリニ入りシガ、翌年六月、出奔センコトヲ企圖シタルニ、事發覺シテ、拘禁セラレ、ニ至ル。
一七九一年四月、時勢ハ、其ノ極端ニ達シタルヲ慨セシミラボイ死セリ。十月ニ至リテ新憲法成リ、國民議會解散シテ、

ろ、シアコベ

立法議會ハ、之ニ代リタリシガ、其ノ議員ハ、三黨ニ相分レテ、就中過激共和主義ノモノハ、ロベスピエールヲ首領ニ戴キ、シアコベン黨ト稱シ、大ニ勢力ヲ逞クセリ。此ノ間ニ於テ、プロシア、オーストリアノ同盟ハ、成ルニ至ル。
一七九二年、オーストリア、プロシアノ

ロ、事實

同盟軍ハ、フランスノ國境ニ迫ル。フランス軍之ヲ防ギテ利アラズ。人心頗ル動搖シ、暴民蜂起シテ、チエーレリー王宮ヲ襲ヒシカバ、國王ハ遁レテ議會ニ至ル。議會ハ、直ニ之ヲ捕ヘテ、ダンブルノ獄内ニ幽閉シ、次テ王黨ヲ虐殺シ、同年九月兵ヲ送リテ同盟軍ヲ擊破シ、立法議會

共和政

ヲ解散シテ、國民議會ヲ之ニ代ヘ、終ニ王政ヲ廢シテ、共和政ヲ宣言シ、次テ十二月、議會自カラ法廷トナリテ、王ヲ審問シ、之ニ死刑ヲ宣告シ、翌年一月刑ヲ執行ス。

ルイ十六世處刑ノ報ノヨーロッパ各國ニ傳ハルヤ、オーストリア、プロシアハ、云フニ及バズ、イギリス、オランダ、イスパニア、スエーデンノ諸國同盟シテ大軍ヲ起シ、フランスノ四境ニ

1、保安委員會

追ル。國內ニ於ケル王黨ノ蜂起亦起リ、
シアコペン黨ハ、先ツシロンド黨ヲ仆
シ國論ヲ一定シテ、保安委員會ヲ設ケ、
マラー、ダントン、ロベスピエール等
ハ、委員トナリテ、國事ヲ議決シ、
カルノー等ヲシテ、兵ヲ率井テ、聯合
軍ヲ各方面ヨリ撃破セシメ、次テ國內
ノ叛亂ヲ鎮定セリ。

保安委員會ノ内憂外患ヲ鎮定スルヤ、
其ノ狂暴益々甚ダシク、委員ヲ各地ニ
送りテ、其ノ政敵ヲ拘禁シ、遂ニ王后
以下千餘人ヲ捕ヘテ、悉ク死刑ニ處セ
リ。加之制度風俗ノ上ニモ、極端ナル
手段ヲ用ヒ、共和曆ヲ製シ、耶蘇教ヲ

一六、フランスの革命

ロ、革命ノ恐怖時代

2、革命ノ過激

嚴禁シ、僧侶ヲ廢シ、寺院ヲ破リ、道
理崇拜教ヲ創ス。既ニシテシアコペン
黨、温和、過激ノ二派ニ分レテ軋轢セ
ルガ、ロベスピエール其ノ間ニアリ
テ、巧ニ之ヲ調和シ、ダントンヲ殺害
シ、獨リ全權ヲ握リ、益々暴威ヲ振
ヒ、虐殺ヲ恣ニセシカバ、遂ニ國民ノ
反抗ヲ受ケ、一七九四年、其ノ黨九十
餘名ト共ニ捕ヘラレ、死刑ニ處セラレ。
是レヨリシアコペン、クラブハ、解散
セラレ、國民集會再ビ權力ヲ恢復シ、
恐怖時代漸クココニ終テ告グ。

3、結果

ロベスピエールノ理想社會建設モ空想
タルニ過ギザルヲ覺知シテ明ヲカトナ

リ、一七九四年、七月、彼死刑ニ處セラレタリ。

一七九五年シアコベン黨ノ餘衆、亂ヲ作シテ、國命ニ抗爭ス。砲兵ノ二佐官ナポレオン、ボナパルト、國會ノ命ヲ受ケテ、之ヲ鎮定セリ。此ノ年國民議會ニ於テ、討議決定ノ後新憲法ヲ制定シ、上下兩院ト五人ノ總裁トニ依リテ、成レルトコロノ政府ハ、此ニ成立セリ。新政府ハ、専ラ侵略主義ヲ採用シ、モロー、シウルダンニ將ヲシテドイツニナポレオンヲシテイタリアニ侵入セシム。

I、總裁政府

イタリア
征服

一七九六年、ナポレオンハ、數萬ノ軍ヲ率井テ、北イタリアニ入り、連戰連勝、サルジニアヲ降シ、オーストリア軍ヲ破リ、其ノ都ウイーンニ迫ラントセルガ、其ノ翌年カムボ、フナルミオノ和議成リ、オーストリアハ、其ノ領ネーデルランド、ナフランスニ讓リ、且ツチムンヒナ共和

2. 外國侵略

る、諸共和國ノ立

國及ビイタリヤ共和
 國創立ヲ認定ス。
 一七九五年オランダ
 バ、フランスノ侵略
 ナ受ケテ、パタゴニア
 共和國トナリ、一七
 九八年、ローマ法王
 擁ニセラレテ、共和
 國起リ、スウーイス
 ハ、フランスノ干渉
 ニヨリテ、ヘルヴェ
 チヤ共和國トナリ、
 フランスノ保護ノ下
 ニ立ツ。

は、エジプト征

ナポレオンハ、既ニ
 オーストリアヲ服シ
 更ニ政府ノ命ヲ受ケ
 テ、イギリスヲ討タ
 ントセルガ、其ノ海
 軍力ノ不完全ナルヲ
 知リ、エジプトヲ征
 シテ、イギリスノ商
 業ニ大打撃ヲ與ヘ、
 之ヲ苦メントナシ、
 一七九八年、三萬五
 千ノ兵、四百餘隻ノ
 船艦ヲ率テ、之ヲ
 征シ、遂ニ平定シ得

三、統領政府

タリシモ、其ノ海軍ハ、イギリスノ將、ネルソンノタメニ撃破セラル。翌年進ンテ、シリアニ入リシガ、目的ヲ達スルコト能ハズシテ、エジプトニ退却セリ。

一七九九年ヨーロッパ列國ハ、イギリスノ主唱ニ基キテ、一大同盟ヲ組織シ、以テフランス軍ニ抗ス。時ニフランスノ統領政治ハ、其ノ威信、地ヲ拂フ。ナポレオン之ヲ聞キテ、急ニ兵ヲ本國ニ宛シ、武力ヲ以テ、政府ヲ倒シ、

八、革命期ノ

國會ヲ解散シ、新憲法ヲ布キ、統領政府ヲ組織シテ、其ノ實權ヲ握ルニ至ル。

一八〇〇年ナポレオン再ビイタリアニ侵入シ、モローハ、ドイツニ入り、各方面トモニ大捷ヲ得。

リウネ
ピ
和約

一八〇一年リウネピルニ於テ和議ヲ約ス
A、ライン河左岸ノ地ヲ皆フランスニ讓ル。

4. 歐洲一和時

る、アミアノ約

B、ナポレオンノ建
設シタル諸共和
國ヲ承認ス。

イギリスモ、財政困
難ニ陥リ、且ツ國民
ハ、皆平和ヲ希望シ
テ止マザリシカバ、
一八〇二年、トリニ
ダード島、ケイロン
島ヲ除ク外、悉ク其
ノ侵地ヲ返シ、以テ
和議ヲ締結セリ。

1. 文勳ト武功

ナポレオンハ、一時ノ平和ニ乘ジ、人
材ノ登用、教育行政ノ刷新、法典ノ編
纂、舊教ノ回復、道路橋梁ノ改修等ノ
如キ、革命ニ依リテ、破壊セラレタル
モノヲ復興スルニ勉メ、着々之ヲ行ヒ
シカバ、國民ハ非常ニ之ヲ歡迎シ、一
八〇二年舉ゲラレテ、終身首班統領ト
ナリ、一八〇四年、遂ニ帝位ニ登リ、
イタリア王ヲ兼ヌルコト、ナレリ。

一八〇三年、イギリ
スハ、フランスニ對
シテ、アミアノ條
約ヲ履行セス、且ツ

い、對佛同盟

頗ル敵意ヲ表シ、ロシア、オーストリア、スウェーデン、ナポレオン等ノ諸國ト相結シテ、對征大同盟ヲ作レリ。
ナポレオンハ、對佛同盟ノ報ヲ得テ、大ニ憤リ、一八〇五年十月、イギリス提督ネルソンハ、イスパニア、フランスノ聯合艦隊ヲトラファルガルノ附近ニ粉砕シ

る、トラファルガールの海戦

イ、ナポレオンの全盛時代

2、對佛同盟ノ戰争

は、アウステルリッツ會議

之ニ依リテ、制海權ハ、全クイギリスニ歸ス。
ナポレオン自カラ陸軍ヲ率井テ、オーストリア領内ニ攻入り連戰連勝ノ勢ヲ以テ國都ウィーンヲ陷レ同年十二月二日、オーストリア、ロシアノ聯合軍トアウステルリッツニ會戰シ、大ニ之ヲ擊破シ、オーストリアヲシテ、

3、神聖ローマ帝國ノ滅亡

一八〇六年、ライン同盟ハ、茲ニ成立シ、ナポレオンハ、其ノ保護者トナレリ。是ニ於テカ、ドイツノ統一ハ、忽チ破壊セラレ、神聖ローマ帝國ハ、遂ニ滅亡スルニ至ル。ドイツ帝フランシス二世ハ、オーストリア帝フランシス一世トナル。

對佛同盟ヲ脱セシメ且ツアレスタブルグ條約ニヨリテ、ベネチア地方ヲフランスニ割讓ス。

（プロシアハ、一七九五年、フランスト和

い、プロシア征伐

議ヲ締結シテヨリ久シク最正中立ヲ守リタリシガ、ナポレオンノ漸次其ノ境内ニ侵入セントスルヲ怖レ、一八〇六年、ロシア、イギリスノ二國ト同盟シテ、フランスニ向ツテ宣戰ス。ナポレオン直ニ兵ヲ率テ、プロシアニ攻入り、十月エーナ及ピアウエルステッドニプロシア軍

ナ撃破シ、更ニ進テ
 國都ベルリンニ侵入
 シ、轉ジテポーラン
 ドニ入り、翌年ロシ
 ア軍ヲブリードラン
 ドニ破リ、遂ニロシ
 ア、プロシアチシテ
 チルシット條約ヲ結
 バシムルニ至ル。

ロシアニハ
 ワルシウワ
 公國、ヨセ
 フノナポリ
 王タル事。

4、
 對普露兩國
 トノ戰爭

る、
 條チルシット
 約ト

A、露佛
 條約

ルイスノオ
 ランダ王タ
 ルコト。ジ
 エーロムノ
 ウエストフ
 アリア王タ
 ルコト。ヲ
 イン同盟チ
 承認シ、大
 陸條例ニ加
 盟スル事。
 プロシアハ
 莫大ノ償金
 チ課セラレ

B、普佛
條約

莫大ノ領土
ヲ割キ、且
ツ兵力ヲ制
限セラレ、
大陸條例ニ
加盟ス。

は、大陸條例

ヨーロッパ大陸ノ諸
國トイギリストノ通
商貿易ヲ嚴禁シ、以
テイギリスヲ苦メン
コトニ勉ム。

一八一〇年ナポレオン其ノ皇后ヨセフ
イナノ子ナキヲ理由トシテ之ヲ廢シ、
オーストリアノ皇女、マリア、ルイザ

5、
ナポレオン
ノ全盛

ヲ娶リテ、皇后トナシ、翌年一男子ヲ擧
グ。爾後一八一二年ニ至ル間ハ、全盛時
代ニシテ、其ノ版圖ハ、實ニ廣大ノマ
ノトナル。ポルトガルハ、大陸條例ヲ
拒ミタルヲ以テ、占領セラレ、イスマ
ニア王フェルガナンド七世ハ、王位ヲ
追ハレヌ。時ニ一八〇八年。又ミニエラ
ース、ナポリ王ニ封セラレ、オースト
リアハ、反抗シテイルリア地方ヲ割
カレ、且ツ大陸條例ニ加盟シ、皇女マ
リアルイザハ、フランス帝ニ嫁セシメ
オランダハフランス帝ノ直轄トナリ、
其ノ威名ハ、全歐洲ニ轟ク。

西洋史

一七、
ナポレオン
の全盛と
其の末路

イ、原

因

連年兵ヲ用ヒタル結果トシテ其ノ兵力ハ、大ニ減殺ス。
大陸條例ヲ發布セル結果トシテ、各國ノ商工業ハ、急ニ衰微シ、其ノ不平ノ聲ハ、漸次反抗ヲ高ムルニ至ル。
併呑シタル地方ニ對シ、歴史習慣ヲ無視シタルヲ以テ、新政ノ反動起リ、終ニ反亂ヲ惹起スルニ至レリ。

イ、原

因

ロシアハ、大陸條例ノ自國ニ不利ナルヲ見テ、之ヲ履行スルコトナク、私ニイギ

近世史

ロ、
ロシア征伐

ろ、事

實

リスト通商ス。是一ハ屈服セシメンガタメノミ。
ナポレオンハ、ロシア遠征軍ヲ起シ、一八一二年五月、五十萬ノ大軍ヲ率非テ、ロシアニ入り、九月モスクバチ陷レタリシガ全市焼失シテ、留マルコト能ハズ。遂ニ退軍ニ決セシガロシア軍ニ襲ハレ、全軍大敗、飢寒ニ苦

は、結

果

ミ、僅ニ身ヲ以テ、
遣ル。パリーニ歸リ
タルモノハ、十萬人
ニ過ギズ。

イギリス、プロシア
オーストリア及ピロ
シアノ四國ハ、同盟
シテ、フランスニ當
リシカバ、ナポレオ
ンハ、此ニ非運ニ傾
キヌ。

一八一三年十月ナポレオンハ、ライプ
チツヒノ大戦ニ於テ、同盟軍ニ破ラレ、
パリーニ歸ル。同盟軍長驅シテ、パ

3、帝位退讓

11チ國ミ、一八一四年三月遂ニ城陥リ、
同年四月、ナポレオンチ帝位ヨリ退ケ、
エルバ島ニ流シ、此ノ地ニ皇帝ノ稱號
ヲ用ヒシメ、フランスハ、ルイ十六世
ノ弟、ルイ十八世迎ヘラレテ、王位ニ
登リ、王政復古ス。

4、百日政府

ヨーロッパ列國ハ、善後策ヲ講ゼンガ
爲メニ、ウィーン會議ヲ開カレタリト
雖モ、列國ハ、互ニ其ノ利害ノ相異ナ
ルモノアリテ一致セザリシカバ、其ノ
報ノナポレオンニ聞エルヤ、蹶起エル
バ島チ脱ス。實ニ一八一八年三月一日。
其ノフランスニ上陸スルヤ、將士狂奔
シテ、彼チ迎エス。王ハ、イギリスニ

ナポレオンノ末路

出奔セリ。然ルニ六月十八日、同盟軍ハ、大ニワートルローニ勝チテ、再ビパリイニ入りシガ、ナポレオンヲセントヘレナ島ニ配流ス。

概

親

一八一四年九月開會
シ、一八一五年六月
閉會ヲ告ケ。ヨーロッパノ平和ハ、漸ク此ニ恢復ス。

A、

イギリスハ、フランス、オランダノ殖民
地ノ一部トマ

ルタ島トチ得
タリ。

B、

プロシアハ、サクソニアノ半部ホンメルン、ウエスト
フアリア、ラ
イン諸州ヲ得
タリ。

C、

オーストリア
ハ、ベネチア、
イルリアヲ恢
復ス。

5、ウイーン列國會議

2、結果

果

<p>D、 ロシアハ、ワ ルシウワ公國 チボーランド 王國トシテ其 ノ王位ヲ兼メ ル事トナル。</p>	<p>E、 スウエーデン ハ、ノルウエ ーヲ得。</p>	<p>F、 オランダハ、 オーストリア 領ネーデルラ ンドヲ得テ、 王國トナル。</p>
-----------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------	------------------------------------------------------------------

<p>G、 スウーイスハ 永久中立ノ聯 邦トナル。</p>	<p>H、 イスパニア、 サルヂニア、 モテナ、ナポ リ、法王領ハ 舊主ニ返ス。</p>	<p>I、 ドイツ聯邦ハ 組織セラル。</p>
-------------------------------------------	------------------------------------------------------------------	---------------------------------

第五篇 最近世史

イ、神聖同盟

1、同盟成立

一八一五年八月、ロシア帝アレキサン
ドル一世ノ首唱ニ依リ、クリスト教ノ
神聖ナル主義ニ基キ、神聖同盟ヲ結ビ、
イギリス、ローマ法王及ビトルコヲ除
キ、ヨーロッパノ諸國ハ、悉ク此ノ同
盟ニ加入ス。オーストリアノ宰相メツ
テルニヒ、其ノ實權ヲ握レリ。

モトヨーロッパノ平和ヲ維持シ、且ツ
宗教ヲ保護スルニアリシガ、其ノ實ハ、
各國君主ガ、其ノ權勢ヲ保護シ、民權
自由ノ抑壓ニアリ。

2、目的

一、革命主義 の反動

ロ、ドイツ學 生ノ騒動

一八一七年、ドイツニ於テ、學生ノ自由主義運動起リ、
一八一九年、オーストリアノ宰相メツテルニヒハ、聯邦
ト相謀リテ、學生ノ結社ヲ解散シ、且之ヲ禁止シ、以テ言
論ノ自由ヲ抑壓ス。

ハ、イ ス パ ニ ア 一 揆

一八二〇年イスパニアニ一揆起リ、フェナランド王ニ迫
リテ、憲法ヲ再興セシメタルガ、神聖同盟ハ、フランス
ヲシテ、之ニ兵力干涉ヲ行ヒテ、以テ舊態ニ復セシム。

ニ、カ ル ポ リ ナ 騷 動

一八二〇年、イタリアノ北部ニ於テ、秘密結社カルポリ
ナノ騷動起リタリシガ、オーストリアヨリ派兵シテ之ヲ
鎮定セリ。

ホ、イ ギ リ ス ニ 於 ケ ル 反 動

イギリスニ於テ、反動起リ、トリーパー黨ハ、獨リ其ノ聲
力ヲ得、穀物條例ヲ通過シ、輸入ノ穀物ニ重稅ヲ課ス。
然ルニ一八一六年、凶作ノタメ、人心動搖シタルヲ以テ、

三、アメリカに於ける各殖民地の獨立

イ、フランスの共和國

黒人多數蜂起シタリシガ、一時ナボレオンニ鎮壓セラレ。然レドモ、後再ビ争亂起ルアリテ、黒人ハ、遂ニ自由ヲ得タリ。是ニ於テカ、ハイチ共和國ヲ建設ス。

ロ、ポルトガルの帝國

ポルトガル王ジョアン六世ノフランス帝ノ難ヲブラジルニ避クルヤ、ブラジルハ大ニ繁盛ニ向ヘリ。然レドモ、一八三〇年、王ノ歸國シ、本國ニ、從來ノ政策ヲ施サントシタリシガバ、國民ハ、擧テ太子ペテロヲ聘シ、以テ獨立ノ帝國ヲ立ツ。

ハ、イヌパニアの殖民地

- 1、チレ
- 2、アエノス、アイレス、パラケアイ、ウルケアイ (以上三國)
- 3、ペネズエラ、ノバ、グラナダ、エケアドル

一八一七年、サル、マルチンノ盡力ニヨリテ、獨立セリ。ヨセフ、イヌパニア王タリシトキ、相分離シタルモノニシテ、フチルゲナン、ド七世、位ニ即キタル後トイヘドモ、依然トシテ本國ニ服從セザリシナリ。此ノ國々ノ獨立ハ、何レモ一八一六年ヨリ一八二五年ノ間ニアリキ。一八一九年、此ノ三國ハ、相同盟シテ、コロンビア共和國ノ起リタリシガ、是ハ、ボリバルノ盡力ニ依ル。一八三〇年、各々互ニ相分立スルニ至ル。ノバ、グラナダハ、現今ノコロンビア是レナリ。

4、
ハリビア
5、
メキシコ

一八二一年獨立シタリ。是ハ、ハリバ
ルノ盡力ニ依レリ。然ルニ後ニ至リテ
其ノ一部ハ、再ビ分裂シテ、一ノ共和
國ヲ成立ス。ハリビア即チ是レナリ。
一八二一年、イッルピデノ力ニ依リ
テ終ニ獨立スルニ至レリ。

一八二三年一月、合衆國大統領モンロ
一ハ、一ノ宣言ヲナシタリ。モンロー
ドクトリンナルモノ、即チ是レナリ。
其ノ要旨トスルトコロノモノハ、左ノ
如シ。

米國大陸中、自由自主ノ條件ノ
下ニ占領セラル、土地。即チ現
存スルトコロノヨーロッパノ屬

註

國及ビ殖民以外ノ土地ニハ、將
來ヨーロッパ諸國ノ殖民ヲ許サ
ザルコト。
ヨーロッパ諸國ガ、獨立ノ諸國
ニ對シテ、干涉ヲナス所ノモノ
ハ、是ハ北米合衆國ニ和親ナラ
ザルノミナラズ、合衆國ニ於ケ
ル平和ト幸福トヲ保持スル上ニ
於イテ、危險ヲ増スモノナリト
コト。
合衆國ハ、絕對ニヨーロッパ諸
國ノ内政ニ干渉セザルモノナル
ヲ以テ、斯クノ如ク、ヨーロッパ
諸國モ亦、米大陸ニ於ケル諸國

イ、原

因

ノ内政問題ニ干渉スルコトナカ
ルベシトノコト。

1、スルコノ武威ハ、頓ニ失墜シテ、昔トノ如クナラズ、且ツ政權ハ、親衛兵ノ手ニ歸シ、國政ノ舉ラザルコト。

2、異人種、異教徒ノ支配ガ、ギリシア人ニ大ナル刺撃ヲ與ヘタルヲ以テ、國民的感情ヲ激發昂騰セシメタルコト。

一八二一年、イブシランチノ指揮ノ下ニ兵ヲ擧ゲタリシガ、トルコハ、エサプトノ太守メヘメツト、アリニ命ツ其ノ子イブラヒムヲシテ、モレアヲ攻略セシメ、甚ダシク殘虐ヲ極メタリ。之ニヨリテ、ヨーロッパノ輿論ハ、大ニ動かサル。ニ至リ、一八二七年、イギリス、フランス

三、ギリヤハ、外國干渉

ハ、結
果

ス、ロシアノ三國ノ間ニ於テ、ギリシアヲ保護スベキ同盟ノ起レルアリテ、直ニ銜ヲ向ク。即チイギリス、フランスノ聯合艦隊ハ、トルコノ海軍ヲナバリノニ破リテ、之ヲ全滅シ、ロシア軍ハ、ドナウ河ヲ渡リテ、トルコニ侵入スルニ至ル。

1、斯クテイギリスハ、同盟ヲ退キシカバ、ロシアハ、單獨行動ヲナスノ好機ヲ得タリトナシ、大ニ雄飛セントセルモ、一八二九年、トルコハ、遂ニ屈服シテ和議ヲ請フニ至レリ。

2、トルコハ、列國ニ對シ、海峽ヲ開放ス。

3、ロシアハ、ドナウ諸國ノ保護權ヲ得タリ。

イ、七月革命

1、原因

フランス王カロロ十世ハ、頗ル頑固ナル保守家ノコトトテ、宰相其ノ人ナキニアラズト雖モ、之ニ任ズルモノナカリキ。而シテ其ノ暴動ノ導火線トナリタルハ、一八三〇年七月ノ禁令ニアリ。此ノ禁令ハ、未ダ開會セザル國會ヲ解散シ、政府ノ私意ヲ以テ、之ヲ改變シ、出版、言論ノ自由ヲ禁止シタルコト是ナリ。

2、結果

斯クノ如クナルヲ以テ、國民ノ憤懣ハ、其ノ局ニ達シ、暴動爆發。市街戦ハ、三日相續キタリシガ、王ハ出奔シ、オルレアン公、ルイ、フイリボ、人民ニ迎ヘラレテ、新憲法ノ宣誓ヲナシ、以テ王位ニ即ク。

四、七月革命

1、ベルギー獨立

一八三〇年八月、南北ノ國情ノ相同シカラザルヨリシテ、ブルツセルノ市民ハ、此ニ蜂起シテ、假政府ヲ建テ、其ノ翌年ヨーロッパノ列強ハ、ミナロンドンニ相會シテ、其ノ調停ヲ計リ、ベルギーガ、永世獨立スヘキコトノ承認ヲ與ヘタリ。

2、ドイツ動搖

ドイツノ諸邦ニ於テモ、革命的運動ノ輸入セラレテ、人民所々ニ蜂起シタリキ。其ノ結局、憲法ノ發布、又ハ其ノ改正ニヨリテ、漸ク鎮靜ヲ告グルニ至レリ。

一八三〇年十一月、ワルシウワニ暴動蜂起シ、ヤガテ新政府ヲ假設シ、次テ

革命の影

3、ポーランドの乱

大ニ爲スアラントセシガ、然ルニ貴族派、平民派ハ、互ニ相軋シテ、ロシヤ軍ノ侵入ヲ防グコト能ハズ。終ニ其ノ翌々年、八萬ノ志士ハ、憫ムベシ、シベリアニ流サレ、憲法ハ茲ニ中止セラル、ニ至ル。

4、イタリヤの援

一八三一年、秘密結社カルボナリノ一揆起レリ。然レドモオーストリアノ援軍來リテ、之ヲ撃破シタレバ、志士ハ、多クハイギリス、アメリカ等ニ遁逃スルニ至ル。

5、西葡ノ内亂

ポルトガルニ於テハ、ペテロノ弟、ミカエル守舊黨ヲ率非テ、位ヲ僭シ、又イスパニアニアリテハ、王弟カロロハ

6、スウイスの改革

専制黨ニ屬シ、内亂ヲ起ス。一八三四年、相戦ヒケルガ、共ニ立憲黨ノ勝利ニ歸セリ。
スウイスハ、ウイーン會議ノ結果、二十州ノ聯邦ヨリ成リ、個々獨立ノ状態ナリシガ、七月革命ノ影響ニヨリテ、國內一時動搖ス。一八三一年、聯邦會議ヲ開キ、民主政治ヲ斷行スルコトヲ議決セリ。

ヨーロッパ平和恢復後、内政ノ改革ヲ斷行シ、一八三二年、選挙法改正案ヲ議決シテ、之ヲ實行スル

7、イギリス改革

い、選挙法改正

ニ至ル。之ニヨリテ腐敗選挙區ハ、廢止セラレテ、新開ノ大市ハ、之ニ代リ、選舉資格者ハ、前日ニ倍スルニ至リ、政黨政治ノ上ニアリテ其ノ面目ヲ一新スルニ至レリ。

ろ、穀物條例止

穀物條例ハ、輸入穀物ニ重稅ヲ課シ、國內ノ工業ヲ保護セントナセリシガ、其ノ結果ハ、却ツテ勞働

1、原因

因は

は、舊教保護

社會ヲ苦メ、工業ノ發展ヲ阻害スルコトトナル。ヨリテ之ヲ廢ス。一八二九年、舊教法案ヲ發布シテ、舊教徒ノ束縛ヲ解ク。

い、

ルイ、フィリッポ王ノ人望ノ大ニ失墜シタルコト。東方ニ於ケル外交上ノ失敗。

ろ、

ナポレオンノ遺骸ヲ迎ヘタルコト。

ギョー内閣ノ政略。此ノ政略ハ、唯中等社會ノ利益ノミヲ保護シ

イ、二月革命

ニ、制限選挙法ヲ施行セルモノナリ。之ニ對スル不平ナリ。

一八四二年二月二十
二日、フランスノ民
間ノ諸黨相合シテ、
選挙法改正宴會ヲバ
リーニ開カントス。
政府ハ、之ニ干渉シ
テ禁止セルヲ以テ、
人民大ニ怒リテ、暴
動ヲ起シ、混亂三日
ニ亘リ、暴徒ハ、途
ニチエーレリー王宮
ヲ侵ス。是ニ於テ

イ、革命ノ破裂

フイリボハ、其ノ大
孫バリ公ニ位ヲユツ
リ、王后ト共ニ王宮
ヲ脱シ、イギリスニ
遁ル。

フイリボ王遁逃ノ後
ハ、社會黨及ビ共和
黨ハ、相合シテ假政
府ヲ建テ、國民工場
ヲ起シテ、無職業者
ヲ集メタリシガ、後
漸ク其ノ弊害ヲ知り
之ヲ閉鎖シタリキ。
然ルニ、暴民亂ヲ起

2、革命

五、二月革命

る、共和政立ノ

シタルヲ以テ、之ヲ
鎮定シ、次テ新憲法
ヲ定メ、共和政治ヲ
宣言シ。任期四年ノ
大統領ヲ選舉シテ、
之ニ行政權ヲ委ヌ。
十二月十日、ナポレ
オン一世ノ甥、ルイ
ナポレオン選バレテ
大統領トナリ、共和
政府建ツ。

オーストリアニ於テ、革命運動ノ起ル
ト共ニ、ドイツニ於テ、民權擴張及ビ
新憲法ノ制定等ヲ主張スルモノ多ク出

1、ドイツニ於
ケル革命運動

テ、プロシアノ都ベルンヲ中心トシ
テ、バーデン、ウエルデンベルヒ、サ
クソニア及ビバウリア等ニアリテハ、
何レモ暴動ノ起レルアリテ、大ニ動搖
セリ。プロシア王フレデリツキ、ウイ
ルム四世ハ、新憲法ヲ制定シ、聯邦
議會ヲ開クコトヲ約シ、同年五月第一
議會ヲフランクフルドニ開キ、憲法
ヲ制定シテ、翌年之ヲ確立セリ。斯ク
テ、プロシアハ、立憲王國トナリ、其
ノ後北ドイツ同盟ヲ作リテ、其ノ編權
ヲ握ラントセルガ、オーストリアノ反
抗ニ逢ヒテ果サズ。

革命影響ノ

2、

オーストリア暴動トホ
ンガリアノ
獨立運動

三月ウイーンニ暴動起リ、其ノ勢極メテ盛ナルヲ以テ、革命主義抑壓ノ總首長タリシ宰相メテルニツヒハ、イギリスニ出奔シ、皇帝フェルディナンドハ、位ヲ其ノ甥フランツ、ヨセフニ譲リタリシガ、ホンガリア人ハ之ヲ承認セズオーストリアハ、兵ヲ送りテ、之ヲ鎮定セントセシガ、却テ國民ノ反抗ヲ招キ、ルイ、フツシウドヲ元首ニ仰ギ、叛旗ヲ翻シテ其ノ勢極メテ盛ナリキ。ロシアノ援軍來リテ、オーストリア人ト共ニ之ヲ討伐スルニ及ビ、ホンガリア軍ハ破レテ、コツシウド以下、皆トルコニ奔ル。

3、
イタリヤ
統一暴動

4、
スウイス

ウイーン革命暴動ノ報ノイタリヤニ到ルヤ、サルツニア王、カロロ、アルベルトヲ始メ、北部イタリヤノ諸地、悉クオーストリアニ向テ、戦ヲ宣シ、半島統一ヲ圖ル。一八四九年三月、カロロ、アルベルトハ、オーストリア軍トノヴァラニ戦ヒ、大敗シテ即日、陣中ニ於テ位ヲ太子ビクトリヲ、エマヌエルニ譲リ、ボルトガルニ遁ル。
スウイスニ於ケル永年ノ紛争ハ、終局ノ勝利ノ新教ノ諸國ニ歸シ、列強ハ、何レモ二月革命ノ影響ヲ受ケ、干渉ヲ加フルノ暇ナキニ乘ツテ、憲法ノ改革ヲ遂行シ、依リテ以テ、國內ノ統一ヲ完成シタリ。

六、ナポレオン三世の蹟

イ、第二共和政

二月革命後ニ共和政ヲ布キ、ルイ、ナポレオン舉ゲラレテ大統領トナリ、フランス第二ノ共和政治ヲ成立スルニ至ル。ナポレオンハ、職權ヲ利用シテ、腹心ノ士ヲ要路ニ擧ゲ、法王ニ媚ビテ、僧侶ノ歡心ヲ買ヒ、領内各地ヲ巡遊シテ、専ラ民心ヲ收ム。一八五二年十二月、機ヲ見テ、非常政變ヲ行ヒ、反對黨ヲ捕ヘ、議會ヲ解散シ、一般投票ニヨリテ、新憲法ノ規定ニ基キ、任期十年ノ大統領ニ任ズ。

ロ、即位

ナポレオンハ、益々其ノ權勢ヲ一身ニ集メ、名ハ、共和政ナリト雖モ、其ノ實ハ、帝政ニ異ナラズ。依リテ元老院ハ、帝國ヲ再興シ、ナポレオンヲシテ、帝位ニ即カシメンコトヲ發議シ、國民大多數ノ賛成ヲ得テ、公然帝政ノ成立ヲ告グ。實ニ一八五二年十二月二日ナリキ。ナポレオン三世ト稱ス。

イ、原因

1、ロシアノ南下策

ロシアハ、常ニ志チ南方に抱キ、濠洲ニ乘ツテ南下セントス。一八二五年、ニコラス一世帝位ニ即キ、イギリスト約シテ、トルコヲ二分シ、自カラバルガ半島ヲ取り、イギリスニエジプトヲ與ヘントセシガ、イギリスノ反對ニアヒテ、之ヲ行フコト能ハザリキ。

2、聖地問題

ペテルヘムノ聖地保護ニ關シ、トルコハ、ロシアノ要求ヲ容レズシテ、兩者間ニ葛藤ヲ生ジ、一八五三年、ロシア帝ハ、水師提督メンジコフヲシテ、コンスタンチンノールニ赴キ、強硬ナル談判ヲ試ミシメタリトイヘドモ、トルコハ、頑トシテ之ニ應セズ。同年

七、クリミア戦争の経過

1、英佛同盟

十月終ニ宣戦ヲ公布ス。ロシアモ亦一月宣戦ノ詔ヲ發ス。

一八五三年、ロシア、トルコ間ノ平和先ツ破レタリシガ、フランス帝ナボレオンハ、好機逸スベカラズトナシ、ギリスト同盟シテ、トルコヲ援助シ、翌年三月、終ニロシアニ對シテ開戦ヲ布告シタリ。是ニ於テ、聯合艦隊ハ、クロンスダツトヲ攻撃シ、陸軍ハ、クリム半島ノセバストボルチ包圍ス。

2、列強ノ態度

プロシア、オーストリアハ、中立ノ態度ヲ執リ、サルツニアハ、見ルトコロアリテ、翌年イギリス、フランスノ同盟ニ加入シ、兵ヲクリミアニ出ス。

3、セバストボルチ陥落

一八五五年、ロシア帝ニコラス二世、征軍ノ裡ニ崩シ、アレキサンドル二世即位シタリシガ、セバストボルチ終ニ陥落シ、列國ハ、パリニ會シテ和議ヲ締結ス。

1、ロシアハ、ドナウ諸國ノ保護權ヲ撤去ス。

2、ロシアノ黒海沿岸ニ於テ、兵庫ヲ設立スルコトヲ禁ズ。

3、黒海ニ於ケルロシアノ軍艦ハ、トルコト其ノ數ヲ同シクスベシ。

4、平時ニアリテハ、列國軍艦ノダーダネルス海峡ヲ通過スルコトヲ禁ズ。

此ノ條約ハ、パリニ於テ、一八五六
年三月、締結セラル。

ハ、結果

イ、カブール

クリミアノ戦ノ起ルヤ、カブールハ、サルゲニアノ地位ヲ看破シ、イギリス、フランスト同盟シテ、パリールノ會議ニ委員トシテ出席シ、オーストリアノイタリヤニ於ケル暴狀ヲ訴ヘテ、大ニ列國ノ注意ヲ惹起セリ。是レ實ニカブールガ、イタリヤノ將來ニ就テ、大ニ手腕ヲ要スルコト更ニ大ナルモノアリキ。

ロ、ナポレオン三世ノ態度

二月革命ノ影響トシテ、イタリヤニ於テ、獨立ノ機運ハ、一時高マリシト雖モ、オーストリア軍ノ討滅スルトコロトナル。モトイタリヤハ、フランス一世以來、オーストリアト争ヒタル地ナルヲ以テ、勝利ノ後ハ、聯邦ヲ作り己ハ、其ノ保護者タランコトヲ希望シ、極力サルゲニアヲ助ケルニ決シ、私ガニカブールヲシテプロンピエールニ來ラシメ、是ニ其ノ密約ヲナスニ至ル。

1、開戦

カブールハ、ナポレオントノ密約後直ニ歸國シ、大ニ戦備ヲナシ、一八五九年、戦端ノ開カレシガ、同盟軍ハ、志士ノ義勇軍ト協力シテ、連戦連勝、オーストリア軍ハ、大敗ス。

オーストリア帝ハ、ナポレオン三世トピラフランカニ會シ、和議ヲ講ズ。

2、チウーリヒ條約

A、ロンバルデア
ナサルゲニア
ニ與フル事。
モテナ、バル
マ、トスカナ、
B、法王領ヲ各藩

ハ、イタリヤ

西洋史

る、條約事項

主ニ選付スル
事。
聯邦ヲ組織シ
テ、法王ヲ其
ノ首長ト仰ク
事。
以上條約セル
ガ、モテナ以
下ノ人民ハ、
サルゲニア合
併ヲ望ミテ止
マザルニ依リ
一八六〇年フ
ランス帝之モ

近世史

3. ガリバルダ

志士ガリバルダハ、尙ホ之ニ満足スル
コト能ハズ。同年自カラ義勇軍ヲ率
之ニ將トシテ、シチリアニ入り、其ノ
全島ヲ征服シ、更ニ轉ジテナポリヲ征
服セリ。カプールハ、之ヲ見テ、其ノ
前進ノ憂フベキモノアルヲ察シ、勸メ
テ退軍セシム。十月王ハ、自カラナポ
リニ進ミシニ、ガリバルダハ、大ニ悦
ビテ、功ヲ王ニ讓リ、其ノ翌年二月、
ナポリ王モ擒ニツキタリ。

承認シ、フラ
ンスハ、ニー
ス及ビサポリ
アヲ得タリ。

ハ、イタリヤ
王國建設

一八六一年三月、ヒクトリアオ、エマヌエル、イタリヤ
王ノ位ニ登リ、イタリヤ全半島ノ主權ヲ握ル。
イタリヤ全半島ト云ヘ、ベネチヤ及ビ法王領ヲ除
外ス。

1、南北ドイツ
ノ情態ノ相
異

2、大ドイツ黨
小ドイツ黨

北部ハ、新教ヲ奉ジ、南部ハ舊
教ヲ奉ジ、尙ホ其ノ他ノ異宗教
ノ行ハル、アリ。

北部ハ、地然タルドイツ民族ナ
ルモ、南部ハ、マジアル、ス
ラヴ、ドイツ其ノ他ノ異人種ノ
雜居スルアリ。

北部ハ、ヨーロッパ平野ノ一部
ナルモ、南部ハ、山岳重疊又ハ
高原地ナリ。

種々ナル異同ヨリシテ、遂ニ此ノ兩黨
ノ分立スルコト、ナリ、互ニ相敵視シ
テ反目スルニ至ル。

イ、原

因

3、鐵血宰相

プロシア王ウイヘルム一世ノ王位ニ
 即ケテ、ビスマルクヲ擧ゲテ、宰相ニ
 任ズ。ビスマルクハ、常ニ小ドイツ黨
 ニ成養スルノ人ナリ。統一問題ハ、プ
 ロシアヲ振興ニ依リテ、解決ヲ告ゲ得
 マク、此ノ國ノ振興策ハ、唯、鐵ト血ト
 ニアリト絶叫シ、直ニ軍備ヲ擴張シ、
 私カニ其ノ時機ノ到来スルヲ待テリ。

一八七三年デンマル
 ク王フレマリキ七世
 歿シテ嗣ナシ。ドリ
 エツクスベルヒ公ク
 リスチヤン九世入テ
 王位ニ即キ、シウル

六、普魯士

日、

34、

シウルスウ
 イヒ、ホル
 スマイン
 事件

イ、原

因

ルウイヒチデンマル
 クニ合併スルノ憲法
 ナ認可セシガ、プロ
 シア、オーストリア
 ノ兩國ハ、協同シテ
 其ノ憲法ノ廢止ヲ求
 メタリ。

デンマルク王ハ、其
 ノ要求ニ應セスシテ
 之ヲ拒絕シタリシカ
 バ、兩國ハ、遂ニ兵
 ナ出シテ、デンマル
 クヲ伐ツ。

九、普墺戦争

経

過

1、普伊同盟

ビスマルクハ、豫テヨリ此ノ戦争ヲ期シタルヲ以テ、其ノ準備トシテ、先ツオーストリアノ敵ナルイタリアト攻守同盟ヲ結ブ。時ニ一八六六年四月。

2、戦

役

六月、遂ニ戦端ハ、茲ニ開カレヌ。オーストリア將軍モルトケノ軍略トプロシア兵ノ精兵トニ敵スルコト能ハズ、サクソニア、ハンノフェル、ホヘミア等ハ、ミナプロシア軍ニ擧ゲラレタリト雖モ、イタリア方面ニアリテハ、オーストリア軍ハ、大ニ勝利ヲ得タリ。い。八月プラトーグ和議成ル。

オーストリアハ、シウレス

ハ、結果

1、平和條約

る、和議事項

A、

ウイヒ、ホル
スタインニ關
スル一切ノ權
利ヲプロシア
ニ讓ル。

B、

ドイツ聯邦ノ
解設承認、新
ドイツ開造ニ
同意ス。

C、

プロシアニ償
金ヲ拂フ。

D、

イタリアニベ
ネチアヲ割讓
ス。

2、北ドイツ聯邦同盟

プロシアハ、其ノ他ハンノフェル、ヘッセン、ナッザウ、フランクフルト等ノ地ヲ併有シ、北ドイツ聯邦同盟ヲ造リテ、其ノ盟主トナル。

3、ホンガリア獨立

オーストリアハ、深ク戦役ノ苦痛ニ壓ミル所アリ。ホンガリアヲ以テ、獨立王國トナシ、オーストリア帝ハ其ノ王位ヲ兼ヌ。

此ノ會議ハ十月ナリ。

1、原因

1、佛帝ノ墜望

フランスハ、近來、イタリアニ、メキシコニ又、普墮戰爭ニ敗テ取リシヲ以テ、政府ノ頼ムベカラザルヲ察シ、其ノ之ヲ攻撃スルコト甚ダシキニ至リ、ナポレオン三世ノ聲望ハ、大ニ衰フ。

2、ルクセンブルグ買收事件

フランスハ、近來ノ失敗ヲ恢復センコトヲ企圖シ、先ツプロシアト同盟ヲ締結シ、次ニルクセンブルグ購入ヲオラシメ、次ニ謀ル。プロシアハ、盟約ニ背キテ、之ニ異議ヲ挿ム。終ニセントン會議ノ結果トシテ、ルクセンブルグハ、中立トナル。一八六七年二月ヨリ五月マデノ間。

3、
件 王位繼承事
イスパニア

一八六八年、イスパニアニ内亂起リ、女王イサベラヲ廢シテ、假政府ヲ建テ、フナールヘンツナルレン家ノレオポルド親王ヲ迎ヘテ、王トナサントス。ナポレオンハ、此ノ報ヲ得テ、大ニ憤慨シ、プロシア王ニ迫リテ之ヲ止メンコトヲ求ム。會レオポルドハ、自カラ王位候補ヲ辭セルヲ以テ、事一旦落着ス。然レドモ、レオポルドハ、之ニ満足セズ、更ニプロシア王ニ迫リテ、將來決シテレオポルドヲシテ、イスパニア王位ヲ望マシメザルベキ誓約ヲ求ム。プロシア王斷然其ノ要求ヲ拒絕ス。兩國ノ平

一〇、
戰普
爭佛

只、
經

過

2、
帝 降 服
フランソワ

1、
上 佛
ノ 國 軍 事
違 算 事

和ハ、終ニ破裂シ、一八七〇年、兩國宣戰ヲ公布ス。

外交ニ失敗ヲ招キタルヲ以テ、イタリヤ、オーストリアノ援軍ハ來ラズ、動員モタメニ迅速ヲ缺キタルヲ以テ、大ニ戰機ヲ失シ、却テ敵軍ノ乘ズルトコトナル。

フランス軍ハ、プロシア軍ト開戦シタリシガ、プロシア軍ハ、勝ニ乗ジテ、メツツ、ストラスブルグノ二城ヲ圍メス。フランス帝之ヲ救ハントシテ、却テセザンニ圍マレ、如何トモ爲スベキ策ナシ。九月二日、殘軍ト共ニ降服ス。

3、護國軍

帝ノ降服ノ報、パリニ傳ハルヤ、ガ
ンペツタハ、首唱者トナリテ、假共和
政府ヲ建テ、專ラ都城ノ防備ヲ修メ、
護國軍ヲ編成シテ、プロシア軍ニ當リ
タリシガ、ヨク防守シタリト雖モ、四
ヶ月後ニ至リ、糧食ノ盡キタルト共ニ
降服ス。實ニ翌年一月ナリキ。

1、平和條約

翌年二月、假條約ヲヘルサイエ
ニ締結シ、五月フランクフルト
ノ本條約ニ依リテ、之ヲ確定ス。
A、
エルサス、ロ
ートリンゲン
ヲプロシヤニ
讓ル。

八、結果

2、其ノ他

ろ、條約事項
五十億フラン
クノ償金ヲプ
ロシヤニ出ス
B、
プロシヤ王、聯邦ニ
推サレテ、新ドイツ
皇帝トナル。
い、ドイツ統一
フランスハ、共和政
治ヲ確立ス。
ろ、佛國ノ
フランスハ、共和政
治ヲ確立ス。
は、イタリヤ
統一完成
イタリヤハ、處ニ乘
シテ、ローマヲ占領
シ、イタリヤ統一ノ
業、ニコニ始メテ完
成ス。

北米合衆國の膨脹

1、版圖擴張

北アメリカ合衆國ハ、一八八三年、獨立ヲ全ウシテヨリ國勢駁々トシテ進ミ、其ノ版圖ハ、頗ル廣大トナルニ至レリ。

ロシアハ、一八五六年ニ締結シタルパリ條約ノ破棄ヲ宣言セリ。

1、原因

合衆國ハ、益々版圖ヲ擴大セシコトヲ欲シ、西南部ノテキサス州ヲメキシコヨリ買収センコトヲメキシコニ交渉ス。メキシコ之ニ應ゼズ。テキサス州ノ人民ハ、合衆國ニ合センコトヲ望ミ、本國ニ叛シテ、共和國ヲ建ツ。後合衆國ニ合ス。其ノ後境界事件ニ付キ、衝突來タス。

メキシコノ戦争

2、事

實

一八四六年五月、兩國ハ、互ニ宣戰ヲ公布シ、合衆國ノ軍ハ、進テメキシコヲ侵シ、殆ド連戰連勝ノ勢ヲ以テ、國都メキシコニ迫リテ、遂ニ之ヲ陷ル。

3、結果

果

一八四八年二月、兩國ノ和議成リ、合衆國ハ、テキサス州ノ外ニ、ニウメキシコ及ピカリフォルニアノ兩地ヲ得タリ。

原因

1、南北事情

い、南部

(A)土地肥沃ニシテ氣候温暖ナリ。(B)其ノ大部分ハ、貴族子弟ノ移住者ナリ。(C)多クハ皆農業ニ従事ス。

ろ、北部

(A)土地瘠薄ニシテ氣候寒冷ナリ。(B)自由ヲ樂ムヲ目的トシテ移住者多シ(C)多クハ商工者ナリ。

2、政黨上ノ争

南北下モニ共和主義ヲ懐抱ストイヘドモ、北方ハ、鞏固ナル共和主義ニシテ中央集權制ヲ取り、南方ハ、純然タル

北米合衆國南北戦争

3、奴隸問題

民主的共和主義ヲ懐抱スルモノ多ク、其ノ結果反目スルニ至ル。アメリカ發見以來、黑人ヲ輸入シ、之ヲ使役スルノ風大ニ行ハレタリシガ、獨立ノ大成スルヤ、奴隸ノ存否問題ノ湧起シテ、北部ハ、協力一致以テ極力其ノ廢止ヲ論ジ、南部ハ、奴隸ヲ耕耘ニ使用セルヲ以テ、大ニ之ニ反對ス。是ニ於イテ、數十年間相反目論争シテ止マズ。

一八六〇年、奴隸廢止黨ノ首領リンカーン、選バレテ大統領トナル。翌年ヨリ翌々年ニ亘リテ、南部ノ十一州ガ、別ニアメリカ聯邦ヲ組織シ、政府ヲリツチモンドニ置キセツプアーソン、デービスヲ大統領ニ選舉ス。一八六一

口、經 過

年四月開戦シ、初メハ、南部ノ勢甚ダ猛烈ナリシガ、一八六三年、奴隸廢止令、北部ニ於テ、發布セララル、ヤ、形勢頓ニ一變シ、一八六五年、北部ノ將ケランド、南部ノ都リツチモンドヲ陷ル、ニ及ビテ、南部諸州降服ス。

ハ、結 果

- 1、……憲法ノ改正。
- 2、……奴隸使役ノ嚴禁ト黑人ニ選舉權ノ付與。

イ、原 因

1、叛 亂

亂

一八七五年、ヘルチエゴビナノ民、トルコ帝ノ重斂ト、宗教上ノ迫害トニ堪フルコト能ハズ。終ニ叛ス。モンテネグロ、セルヴィアハ、之ガ後援トナル。

2、列國干涉

ロシアノ外相ゴルチキョフハ、此ノ機乘ズベシトナシ、トルコノ内政ニ干渉ス。トルコ怒リテ、ドイツ、フランスノ領事ヲ殺ス。是ニ於テ、ロシア、フランス、ドイツ、オーストリア、イタリアノ聯合艦隊ハ、忽チサロニキニ迫リ、以テ損害賠償ヲ要求セリ。

ブルガリア虐殺事件起リ、列國ハ、大ニ憤慨シタリシガ、就中ロシアハ動員令ヲ發シテ、戦争ノ準備ニ着手シタリ

露土戦争

口、戦

記

3、ブルガリア事件

シガ、トルコノ改革令ノ出デ、一時出兵ノ口實ヲ失フ。然レドモ巧ニ詐謀ヲ逞ウシ、ロンドン議定書ヲトルコニ送り、其ノ拒絶セラレタルヲ理由トシテ、一八七七年四月トルコニ宣戦ヲ公布ス。

ロシア軍ハ、プレブナノ城砦ヲ陥レシガ、之ニ依リテトルコハ、終ニ屈服シ、ロシア軍ハ、疾驅シテ、アドリアノープルヲ陥ル。此ノトキ、イギリスハ、人民保護ヲ名トシテ、有力ナル艦隊ヲトルコノ都ニ送りタリキ。終ニ和ヲ講ズルニ至ル。

トルコハ、モンテネグロ、セルビア、ローマニアノ獨立ヲ承認ス。

ハ、結

果

1、サンステファア條約

ブルガリアノ領域ハ、甚ダシク廣大シ、ロシアノ保護ノ下ニ自治制ヲ布ク。土地ヲ割讓シ、且ツ償金ヲ支拂フ。

イギリスノ抗議ト、ビスマルクノ仲裁トニ依リテ、右ノ條約ハ、左ノ如ク訂正ス。

2、ヘルリン會議

A、ブルガリア領土ヲ縮小シ、列國委員監督下ニ自治制ヲ布ク。

訂正條約

B		C	
ロシアハ、ベ	サラビア及ビ	ヘルツェゴビ	ア、ボスニア
アルメニアノ	一部ヲ得ベ	チオーストリ	アニ、テツサ
シ。		リアチギリシ	アニ、キプロ
		ス島チイギリ	スニ讓ル。

一四、三國同盟
二國同盟

イ、三國同盟

フランスハ、一八七一年、普佛戦争ノ敗後、ドイツニ對スル報復ノ念ノ熾ニシテ、ロシアハ、一八七八年、ベルリン會議後、ドイツ、オーストリアチ恨ムコト甚ダシクフランスト相結托シテ、ドイツニ寇セントスルニ至ルガ如シ、ビスマルク之ヲ看破シ、一八七九年オーストリアト秘密ニ防禦同盟ヲ結ビシガ、イタリアモ亦法王ノ復仇ヲ恐レ、且ツフランスニ對スル政策上ヨリ、他ノ強國ト結ブノ必要アルヲ以テ、終ニ此ノ同盟ニ加ハリ、一八八三年、三國同盟成ル。

ロ、二國同盟

ロシア、フランスノ兩國ハ、政權上極端ナル差異アルニ拘ハラズ、ドイツ、オーストリアニ對スル政策上、互ニ近ツキツ、アリケルガ、三國同盟成立後、特ニ其ノ切要ヲ感シ、一八九〇年兩國同盟條約成立シ、翌年九月之ヲ公表ス。

一五、トルコ
アギリシ
ア戦争

イ、原
ロ、經
ハ、結

果 過 因

地中海上ナルクレテ島ハ、久シクトルコニ屬シ、一八八五年以來、屢叛亂ヲ企ツ。列國ハトルコニ抗議シテ、抑歴ノ罪ヲ問フ。トルコ決セズ。島民ハ、ギリシアニ内屬センコトヲ欲シ、ギリシア即チ兵ヲ送リテ、之ヲ助ク。是ニ於テカ戰端開ケルニ至ル。

トルコ軍ハ、破竹ノ勢ヲ以テ、ギリシア軍ヲ破リ、ギリシア軍ハ、連戰連敗、遂ニ和ヲ求ム。

テツサリアチトルコニ割讓シ、償金二千萬弗ヲ拂フ。是ヨリギリシアノ財政ハ、大ニ窮乏ニ陥リ、列國ノ管理スル所トナリ、獨立ノ體面ナキモノ、如シ。

1、佛國ノチエニス占領
フランスノアルジュリア占領ハ、ルイフィリポノ代ナリシガ、其ノ後キプロス、イギリスノ占有ニ歸セルヨリシテ、フランスハ其ノ地中海ニ於ケル勢

イ、アフリカ

2、エジプト
排外事件

力ノ優越ナランコトヲ憂懼シ、一八八一年、ドイツノ幹旋ニ依リテ、イタリアノ不平ヲ顧ミズ、終ニチエニス占領ヲナス。

エジプトハ、財政困難ノ極、スエズ運河ノ株券チイギリスニ賣リ、イギリスフランス二國ノ管理ヲ受ケルコト、ナリシガ、一八八二年、アラジ、パシヤ排外的大運動ヲ起シ、外人ノ虐殺ヲ行ヒタリシカバ、イギリスハ兵ヲ派遣シテ、之ヲ占領シ、其ノ財産管理權ハ、之ヲ獨占スルニ至ル。

フランスハ、一八九五年、マダカスガルチ以テ、保護國トナシタル後、横斷

3、フアシヨダ
事

策實行上ノ必要ヨリ、ニール上流ノフ
アシチダチ占領セルガ、イギリスノ縱
貫策ト相容レズ、イギリスノ抗議ニ依
リテ、止ムコトヲ得ズ、其ノ兵ヲ撤退
セリ。

い、南亞ニ於ケ
ルニ共和國

喜望峰殖民地ハ、一
八一四年、オランダ
ヨリイギリスニ割讓
セラレタルモノナリ
シガ、イギリスノ政
策ニ服セザル者ハ、
北方ニ移住シ、トラ
ンスヴァール、オラ

ンジウノニ共和國ヲ
建設セリ。

4、南亞事件

ろ、開戦由來

トランスヴァール其
ノ地ヨリ金銀、金剛
石擴ノ發見以來、イ
ギリス人ノ移住者頗
ル多ク、イギリスハ
政權ヲ分與セルハト
ヲ要求セルガ、之ニ
應セズ。

は、結

果

一八九九年、遂ニ戰
端ヲ開キ、一九〇二
年ニ共和國ハ全ク屈
服ス。

一六

ベルン會議
後に於ける
アジア、
アフリア

1、中亞ニ於ける英露

い、英露協商

ロシアノバシール遠征ハ、インドヲ迫害スルモノトシテ、一八九五年、二國協商ノ成立ヲ見ル。

ろ、露方侵略

ロシアハ、裏海東岸ヲ侵略シ、一八八一年、清國イリノ一部一八八三年、ホーカンド地方、其ノ翌年ニハメルフ地方ヲ略シ、外裏海鐵道ヲ敷設シ、益々之ヲ經營進行ス。

2、東南アジアニ於ける英佛

い、清佛戰爭

ろ、英佛協商

フランスハ、安南ヲ保護國トセルヨリ、清佛開戦、一八八三年、フランスハ、終ニ其ノ目的ヲ達ス。イギリスハ、一八八六年ビルマヲ併呑シ一八九六年、フランスト協商シテメーコン河上流ノ勢力範圍ヲ定ム。

朝鮮内亂ニ乘ジ、清國ハ、天津條約ヲ無視シテ、出兵セルヲ

3、日清事件ト三國干渉

い、事 件

以テ、兩國兵ヲ動かシ、東洋ノ大亂トナリタリシガ、二年ノ後和ヲ講ズ。

る、三國干渉

和議條約成ルヤ、ロシアハ、フランス、ドイツ二國ト共ニ、日本ノ得タリシ遼東半島ノ地ヲ清國ニ還付セシム。次テ清國ニ要求シテ、膠州灣ヲドイツニ、旅順口ヲロシアニ租借スルコトヲ諾セシム。

ロ、アジア

4、日英同盟

清國領土保全ト、朝鮮ノ獨立トハ、日本、及ビイギリスニ取リテハ、重大ナル利害關係ヲ有スルヲ以テ、一九〇二年、北清事變ヲ機トシ、兩國ノ同盟ヲ組織シタルハ一九〇二年八月ナリ。次テ一九〇五年八月、更ニ新協約ヲ結ビテ、攻守同盟ニ改訂シ、降テ一九一一年、更ニ改訂ス。

5、日露戦役

一九〇四年、日露兩國ハ、滿洲撤兵問題ニ胚胎シテ交戦シ、海陸トモ日本ハ連戦連勝、遂ニ日本海ノ海戦ニテロシア艦隊全滅シ、兩國ノ委員ボーツマニ會シテ、平和條約ヲ締結ス。

6、朝鮮併合

韓國ハ、東洋ノ伏魔殿ト稱セララル。日本トハ、僅ニ一葦帶水ヲ隔ツルノミナルヲ以テ、日本ノ國防上、忽ニスベカラザル所ナリ。日清、日露ノ二大戦役モ、之ガタメニ行ヘルノミナリ。然ルニポーツマス條約ノ結果日本ノ保護國トナリシガ、一八一一年八月、終ニ日本ニ併合シ、之ヲ朝鮮ト稱ス。

一七、北米合衆國の近況

- イ、ハワイ併合
- ロ、米西戦争

一八九三年、ハワイニ革命起リ、王政ヲ廢シテ、共和政トナシ、一八九七年アメリカニ合ス。

一八九五年、イスパニアノ屬領タルキューバニ於テ、叛亂ノ起リタルヲ以テ、大統領マツキンレー之ニ干渉ヲ試ミ、イスパニアト戦端ヲ開キ、遂ニ之ヲ撃破シテフィリッピン群島ヲ得タリ。是ニ於イテカ、合衆國ハ、東洋ノ市場ニ参加スルコト、ナレリ。

い、ドイツ

ドイツハ、學術ノ淵藪トナリ、哲學ノ如キハ、盛ニ研究セラレ、近世哲學ノ素斗タルカントヲ始メ、フイヒテ、シエリン、ヘーゲル、ハル

1、哲學

る、イギリス

トマン、シチベンハ
ウエル等相次テ出テ
來リ、各一家ノ説ヲ
唱フ。

イギリスニテハ、ミ
ル、スベンサー相次
テ出テ、哲學界ニ一
新生面ヲ開ク。

は、フランス

十九世ノ初、有名ナ
ルコント出テ、社會
學ヲ創始シ、學界ヲ
利スルコト、頗ル大
ナリ。

1、哲學

2、史

學

文藝科學ノ進歩ニ伴ヒテ、史學ノ研究
頗ル隆盛ニシテ、特ニドイツニ於テ、最
モ盛ナリ。一八二〇年代ニハニーブル
出テ、次テランケ出テ、更ニ光輝ヲ發揚
セリ。是ヨリジューベル、バウムガルテ
ン、トライチケ、モシセス、ロレンシ等
輩出シ、史學ノ研究ハ、最モ盛ナリ。其
ノ他フランスノギゾー、テーヌ、イギ
リスノマコーレー、フリーマシ等出ツ。

い、ドイツ文學

兩明星トシテ知ラレ
タルハ、ゲーテ、シ
ルレルノ二人ニシテ
ホフマン、クライネ
ト、ハイネ、ハウプ

3. 文學

イギリス文學

トマン等ノ出ヅルアリ。

十九世紀ノ初、ウォース、コルリツジ
出テ、新文學ノ先驅トナリテヨリ、スコ
ット、バイロン、テ
ニソン、ゲツケン
サツクレイ等ノ文藝
及ビカーライル、
コーレー、ラスキン、
アーノルド等ノゴト
キ評論家ノ相次デ出
ヅルアリ。

フランス文學

其他諸國

十九世ノ初、シア
トブリアン、ラマル
チータ等出テ、文學
ノ勃興ヲ促シタルニ
依リテ、ユーゴー、
ゴウチエ、ゲウマ
及ビゾラ等ノ如キ文
豪ノ出ヅルニ及ビ、
フランス文學ハ、最
モ盛チ極ム。
ロシアノトルスト
ノルウエーノイブ
ン、アメリカ合衆國
ノロンゲフェロー、

一八、十九世紀に於ける文學美術

口、科學

1、科學ノ進歩

十九世紀ニ於ケル科學ノ進歩ハ、實ニ驚クベキモノアリ。天文、地理、理科、生物等ノ研究ハ、何レモ非常ナル發達ヲナセルガ、就中ドイツ人マイエルノ勢力不滅説ト、イギリス人ダーウインノ進化論トハ、二大發明ト云フベシ。

エマソン、アーヴィング等ノ如キ、皆有名ナリ。

い、蒸氣力

始メテ機械ヲ應用セルハ、イギリス人ワットニシテ一七六九年ニアリ。之ヲ實用

2、科學ノ應用

ろ、電氣力

ニ供セルハ、一八〇七年、アメリカ人ワルトンノ汽船ヲ造リタルト、イギリス人スチアンソンノ汽車ヲ造セルニアリ。一八三七年、アメリカ人モリスニ依リテ、初メテ應用セラレ、電信機トナリ、ベルハ、電話機ヲ發明シ、電燈、電車、無線電信等ニ應用セラル、ニ至ル。

ハ、美術

1、建築

擬古風ハ、盛ニ流行シ、嶄新ナル様式ヲ存セズ。唯、最近ニアリテハ、ロマネスク式、ゴシック式又ハアラビア式ノ如キ、諸種ノ様式ヲ參酌シテ、一種ノ様式ヲ案出ス。

2、繪畫

フランスハ、最モ盛ニシテ、ダビッドドウラクロア、ジエリコール等輩出シ頗ル盛運ニ向フ。其ノ他ドイツノホルネリオ、オーフェルベック、モリツ、ピロチー、レンバハ、イギリスノスタインフィールド、ベイトン、ハント等名アリ。

フランス、イタリアニ於テ、最モ隆昌ヲ極メタリシガ、多クハ擬古風ニシテ

3、彫刻

優麗ヲ以テ、名アリ。ドイツノ名手トルワルドセンハ、理想的ノ彫刻家ニシテ、其ノ作ハ、活氣ヲ帶ビ、眞摯簡樸ノ美風ヲ保チ、以テ、世ヲ風靡シタリ。

細圖註解

西洋史終

最近世史

明治四十四年十二月五日印刷
明治四十四年十二月八日發行

不許複製

編者 中等教育學會

發行者 辻本末吉
東京市神田區表猿樂町廿四番地

發兌 修學堂書店
東京市神田區表猿樂町廿四番地

電話本局一七五三番
振替貯金三二二八番

印刷者 遠藤廉治
東京市麴町區飯田町二ノ六八

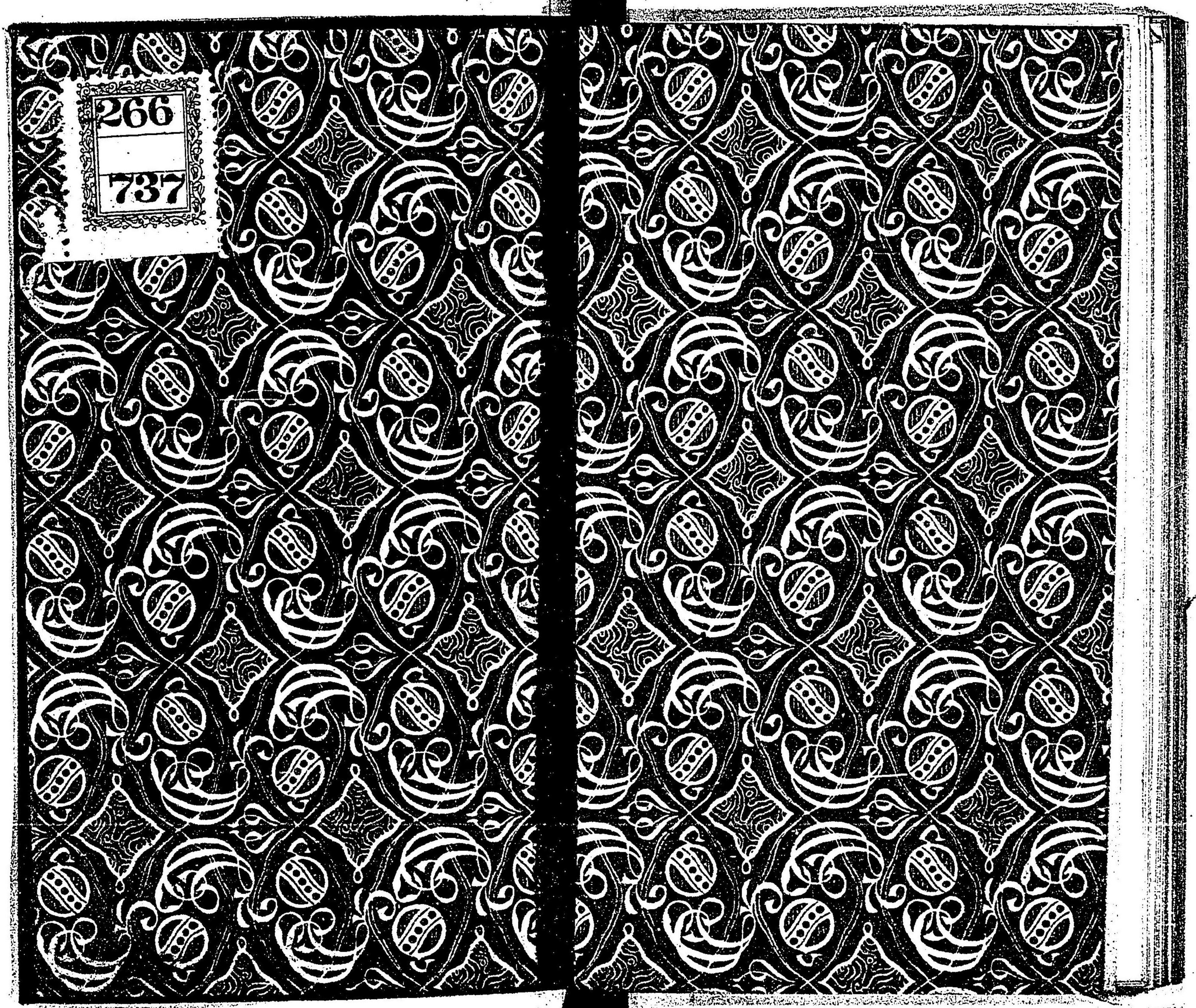
印刷所 公木社
東京市麴町區飯田町二ノ六八

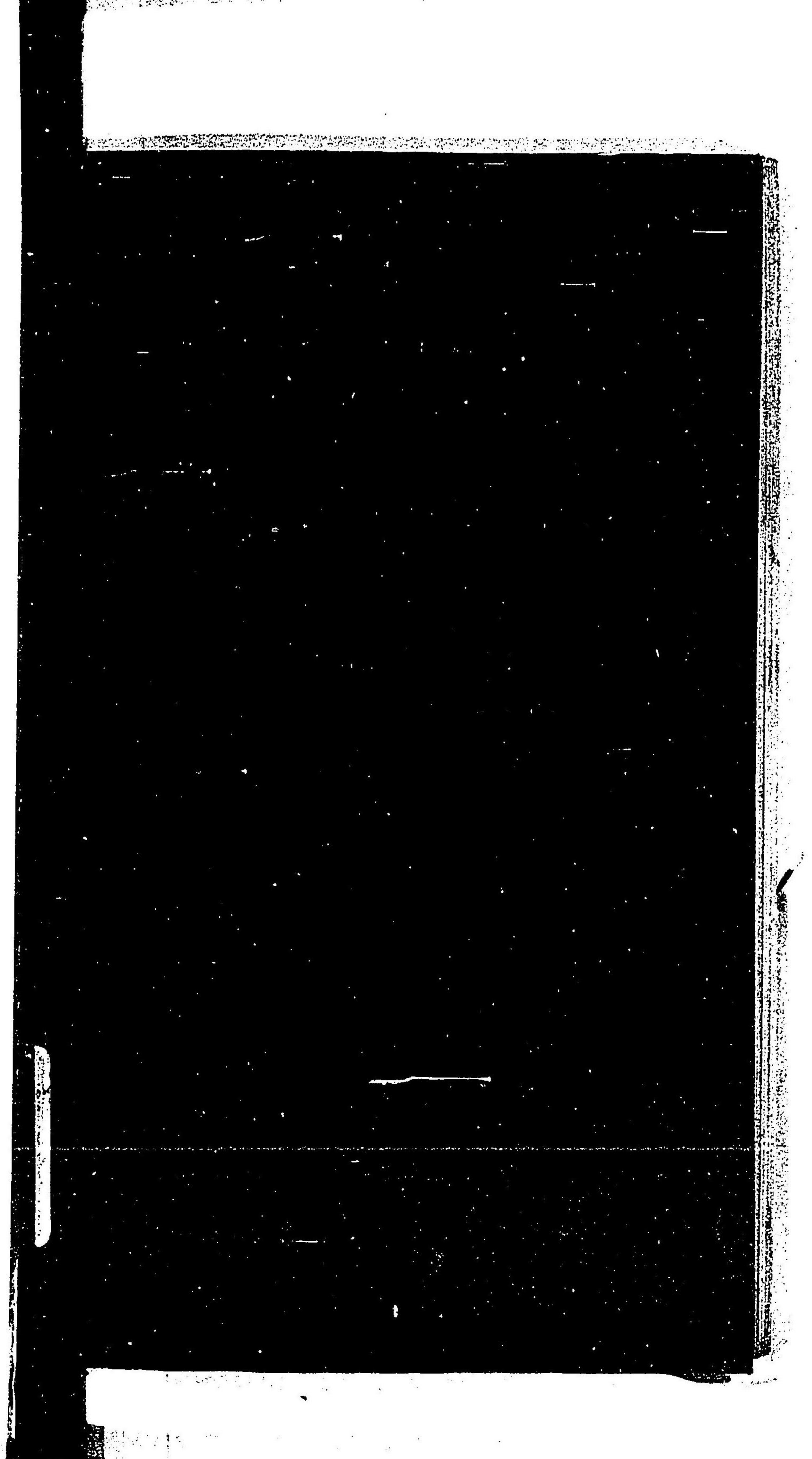
西 洋 史 表細 解註

正郵 價稅 金 錢 五拾貳 錢 四

266

737





003622-000-2

特62-621

西洋史

中等教育学会 / 編

M44

ACD-0209



